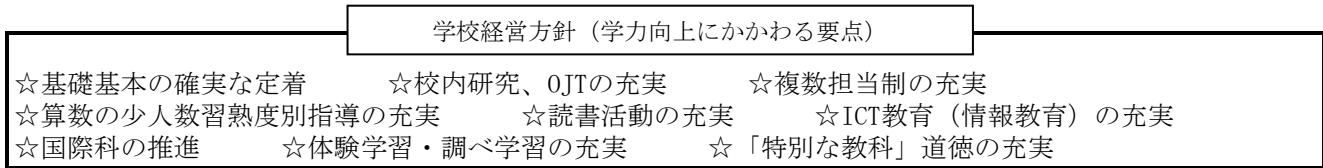
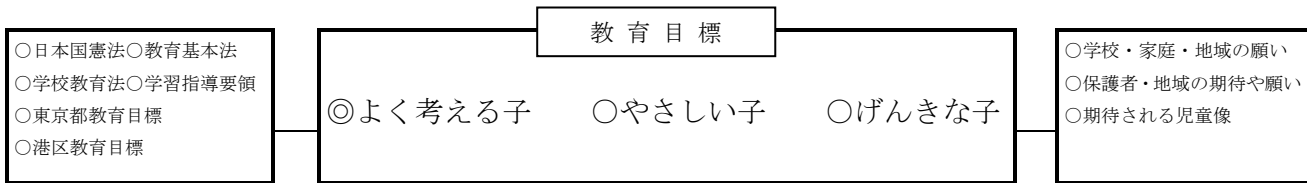


平成28年度 授業改善推進プラン



各教科の指導の重点を確実に児童に身に付けさせるため次の取組を行います



<b>道徳教育の指導の重点</b> *SST（ソーシャル・スキル・トレーニング）の取り組みを生かし、アクティブラーニングなどの指導法を取り入れ、自己肯定感や他者への思いやりを重点として育てていく。	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 15%;">教科名</th> <th style="width: 85%;">取組内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="text-align: center;">国語</td> <td>                             *読解力の向上として主人公や筆者の思いを丁寧に読み取るだけでなく、普段の読書活動も推進していく。                              *作文では、5W1Hの基本をおさえた構成メモの活用、互いに見合う推敲を行う。                              *良い作文を紹介し、良い表現を広げていけるようにする。語彙の習得のため、辞書を引く活動を入れるようにする。                         </td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">社会</td> <td>                             *方位や都道府県名などの基礎的・基本的知識・技能の習得のために、定期的に学習の振り返りを行う。                              *授業の中で表やグラフなどの資料を読み取る機会を多く確保し、資料活用能力を身に付けさせる。                         </td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">算数</td> <td>                             *数と計算の領域の問題に対して課題がある学年がある。習熟度別コースでの指導、東京ベーシックを活用し、習熟を図っていく。                              *習熟度別コースでは、児童の実態に応じ既習内容の復習をして基礎基本の定着を図る。                         </td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">理科</td> <td>                             *様々な実験や体験についての「予想」や「仮説」、「結果」や「考察」を表現する活動を多く取り入れ、継続的な指導を行う。                              *ICT教材や資料を活用したり、言語活動を取り入れて授業後や単元末に用語を正しく用いながら学習感想を書かせたりして、基本的内容の定着を図る。                         </td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">生活</td> <td>                             *植物を育てたり、動物に触れたりする活動を設けるようにする。                              *観察シートに絵を描く活動の際には、どの部分を描くのか具体的に指示し、観察するときのポイントとして、「色」「形」「大きさ」などに気をつけるよう指導する。                         </td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">音楽</td> <td>                             *音楽の要素と関わらせて表現を工夫する活動を増やす。                              *楽器の技能習得についてはスモールステップで継続して取り組むようにし、個別指導を取り入れる。                              *音楽集会、ミニコンサート、音楽会を通して、全校児童が互いに聴き合い、ともに音楽活動をする楽しさを味わうようにする。                         </td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">図画工作</td> <td>                             *様々な素材体験を通し表現の幅を広げて行く。                              *個々の価値観を認め、誉め、自信を持って最後まで制作に取り組めるよう支援する。                         </td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">家庭</td> <td>                             *調理実習や洗濯、被服実習等の体験学習を通じて衣食住に関する知識・理解を深め、学習後の実生活でも意欲的に実践できるように指導する。                         </td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">体育</td> <td>                             *体格差や技能差に応じたグループづくりやペア学習、学習形態の工夫などにより、苦手意識をもつ児童の意欲を高めるとともに運動の習慣化を図る。                              *運動の仕方や体の動かし方などのポイントをおさえた指導をすることにより技能を確実に身に付けていく。                         </td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">国際</td> <td>                             *NTと連携し、学習内容やフレーズの意味など児童がより理解しやすいように示し方を工夫し、安心感と自信をもって話せるように励ましていく。                              *国際科発表会では、学習の成果を発表し、互いに認め合い、次の学習に生かせるようにする。                         </td> </tr> </tbody> </table>	教科名	取組内容	国語	*読解力の向上として主人公や筆者の思いを丁寧に読み取るだけでなく、普段の読書活動も推進していく。 *作文では、5W1Hの基本をおさえた構成メモの活用、互いに見合う推敲を行う。 *良い作文を紹介し、良い表現を広げていけるようにする。語彙の習得のため、辞書を引く活動を入れるようにする。	社会	*方位や都道府県名などの基礎的・基本的知識・技能の習得のために、定期的に学習の振り返りを行う。 *授業の中で表やグラフなどの資料を読み取る機会を多く確保し、資料活用能力を身に付けさせる。	算数	*数と計算の領域の問題に対して課題がある学年がある。習熟度別コースでの指導、東京ベーシックを活用し、習熟を図っていく。 *習熟度別コースでは、児童の実態に応じ既習内容の復習をして基礎基本の定着を図る。	理科	*様々な実験や体験についての「予想」や「仮説」、「結果」や「考察」を表現する活動を多く取り入れ、継続的な指導を行う。 *ICT教材や資料を活用したり、言語活動を取り入れて授業後や単元末に用語を正しく用いながら学習感想を書かせたりして、基本的内容の定着を図る。	生活	*植物を育てたり、動物に触れたりする活動を設けるようにする。 *観察シートに絵を描く活動の際には、どの部分を描くのか具体的に指示し、観察するときのポイントとして、「色」「形」「大きさ」などに気をつけるよう指導する。	音楽	*音楽の要素と関わらせて表現を工夫する活動を増やす。 *楽器の技能習得についてはスモールステップで継続して取り組むようにし、個別指導を取り入れる。 *音楽集会、ミニコンサート、音楽会を通して、全校児童が互いに聴き合い、ともに音楽活動をする楽しさを味わうようにする。	図画工作	*様々な素材体験を通し表現の幅を広げて行く。 *個々の価値観を認め、誉め、自信を持って最後まで制作に取り組めるよう支援する。	家庭	*調理実習や洗濯、被服実習等の体験学習を通じて衣食住に関する知識・理解を深め、学習後の実生活でも意欲的に実践できるように指導する。	体育	*体格差や技能差に応じたグループづくりやペア学習、学習形態の工夫などにより、苦手意識をもつ児童の意欲を高めるとともに運動の習慣化を図る。 *運動の仕方や体の動かし方などのポイントをおさえた指導をすることにより技能を確実に身に付けていく。	国際	*NTと連携し、学習内容やフレーズの意味など児童がより理解しやすいように示し方を工夫し、安心感と自信をもって話せるように励ましていく。 *国際科発表会では、学習の成果を発表し、互いに認め合い、次の学習に生かせるようにする。	<b>生活指導の重点</b> *学年・学級の生活指導上の課題を明確にし、児童にその課題を自覚させながら改善を目指していく。 *三田アカデミーでの生活目標をもとに、年3回の「あいさつ月間」を実施し、自ら進んで気持ちのよいあいさつができる児童を目指す。
教科名	取組内容																							
国語	*読解力の向上として主人公や筆者の思いを丁寧に読み取るだけでなく、普段の読書活動も推進していく。 *作文では、5W1Hの基本をおさえた構成メモの活用、互いに見合う推敲を行う。 *良い作文を紹介し、良い表現を広げていけるようにする。語彙の習得のため、辞書を引く活動を入れるようにする。																							
社会	*方位や都道府県名などの基礎的・基本的知識・技能の習得のために、定期的に学習の振り返りを行う。 *授業の中で表やグラフなどの資料を読み取る機会を多く確保し、資料活用能力を身に付けさせる。																							
算数	*数と計算の領域の問題に対して課題がある学年がある。習熟度別コースでの指導、東京ベーシックを活用し、習熟を図っていく。 *習熟度別コースでは、児童の実態に応じ既習内容の復習をして基礎基本の定着を図る。																							
理科	*様々な実験や体験についての「予想」や「仮説」、「結果」や「考察」を表現する活動を多く取り入れ、継続的な指導を行う。 *ICT教材や資料を活用したり、言語活動を取り入れて授業後や単元末に用語を正しく用いながら学習感想を書かせたりして、基本的内容の定着を図る。																							
生活	*植物を育てたり、動物に触れたりする活動を設けるようにする。 *観察シートに絵を描く活動の際には、どの部分を描くのか具体的に指示し、観察するときのポイントとして、「色」「形」「大きさ」などに気をつけるよう指導する。																							
音楽	*音楽の要素と関わらせて表現を工夫する活動を増やす。 *楽器の技能習得についてはスモールステップで継続して取り組むようにし、個別指導を取り入れる。 *音楽集会、ミニコンサート、音楽会を通して、全校児童が互いに聴き合い、ともに音楽活動をする楽しさを味わうようにする。																							
図画工作	*様々な素材体験を通し表現の幅を広げて行く。 *個々の価値観を認め、誉め、自信を持って最後まで制作に取り組めるよう支援する。																							
家庭	*調理実習や洗濯、被服実習等の体験学習を通じて衣食住に関する知識・理解を深め、学習後の実生活でも意欲的に実践できるように指導する。																							
体育	*体格差や技能差に応じたグループづくりやペア学習、学習形態の工夫などにより、苦手意識をもつ児童の意欲を高めるとともに運動の習慣化を図る。 *運動の仕方や体の動かし方などのポイントをおさえた指導をすることにより技能を確実に身に付けていく。																							
国際	*NTと連携し、学習内容やフレーズの意味など児童がより理解しやすいように示し方を工夫し、安心感と自信をもって話せるように励ましていく。 *国際科発表会では、学習の成果を発表し、互いに認め合い、次の学習に生かせるようにする。																							
<b>総合的な学習の時間の重点</b> *自分のこととして課題解決に取り組んでいけるように、自分の住む地域や2020年に東京で開かれるオリンピック・パラリンピック教育に絡めたりする題材の設定を行っていく。 *課題解決のためのタブレットを活用した情報収集能力や資料活用能力を社会科の学習と連携しながら行っていく	<b>進路指導の重点</b> *高学年では、三田アカデミーとの連携を図りながら中学校に向けて必要な学習・生活指導上の課題を指導する。また、中学校との交流活動を活発に行っていく。総合的な学習の時間を利用し、「1/2成人式」や将来の自分を見つめ、職業を調べる学習を通して、キャリア学習を行っていく。																							